

令和2年度 国語 (50分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は28ページである。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
 - ・①氏名欄
氏名を記入すること。
 - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

21

1 問1～問5に答えよ。

問1 傍線部の漢字の正しい読みを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

モーツァルトは神童の誉れが高い。

- ⑤ ほま
- ④ いわ
- ③ すぐ
- ② あき
- ① ふく

問2 (ア)、(イ)の傍線部に当たる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 2・3。

(ア) 規範意識が生まれるケイキになる。

2

- ⑤ ケイコウトウを取り替える。
- ④ 経済の動向にケイシヨウを鳴らす。
- ③ 豊かな自然のオンケイを受ける。
- ② ケイヤクを見直す。
- ① リサイクル活動をケイハツする。

(イ) ムゾウサに置く。

3

- ① 経歴をサシヨウする。
- ② サジヨウの楼閣。
- ③ 中古車をサテイする。
- ④ 優雅なシヨサにひかれる。
- ⑤ 道路をフウサする。

問3 主語・述語の係り受けが正しい文を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

- ① 私の目標は、今年こそ大きな大会で上位に入賞したい。
- ② 私の父の日課は、毎朝新聞を欠かさず読んでいる。
- ③ 私の妹の趣味は、ピアノを弾くことが好きだ。
- ④ 私の兄は、栄養の偏った食事で体調を崩した。
- ⑤ 大切なことは、相手の立場に立って考えることが必要だ。

問4 枕詞「ぬばたまの」が導く語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5。

- ① 黒・闇・夜
- ② 日・昼・紫
- ③ 引く・張る・射る
- ④ 年・月・日
- ⑤ 神・社・氏

問5 次の文章から読み取れる内容として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

ヒトの遺伝子に存在するDNAには、A、C、G、Tという四つの塩基の、特定のパターンを繰り返しが多数含まれている。これを「制限酵素」とよばれる、パターンを認識して特定の塩基配列のみを切断する酵素で切断し、得られたDNAの断片を電気泳動させる。すると、DNAの断片が長さにしたがって分離する。これを特殊な試薬を使って染色すると、分離のパターンを決める塩基の配列が人それぞれに固有のものであるため、指紋のように人それぞれに固有のバンドが現れる。

(梅津和夫『DNA鑑定』による。)

- ① DNAは制限酵素により、あらゆるパターンの配列が分離して電気泳動を始める。
- ② DNAの断片は長い順に分離し、その中から特定の制限酵素が生じる。
- ③ DNAの断片を電気泳動させることにより、分離のパターンが染色される。
- ④ 四つの塩基は、特殊な試薬を使って染色すると特定のパターンに分離される。
- ⑤ 特定の塩基配列の分離のパターンは指紋のように各個人それぞれ固有のものである。

2

北高校では例年六月中旬に、体育館とグラウンドを使ってクラス対抗スポーツ大会が行われてきた。しかし、グラウンドの改修工事が入ることが急遽決まり、来年度は、例年通りのクラス対抗スポーツ大会の開催が不可能となった。次の【話合いの一部】は、北高校で行われた生徒会役員とクラス代表者による話合いの一部である。これを読んで、問に答えよ。

【話合いの一部】

(発言者の下の数字は、発言回数を示す)

生徒会①

「それでは話合いを始めます。今回は、来年度のクラス対抗スポーツ大会が中止となることについて話し合いたいと思います。学校からの原案はクラス対抗スポーツ大会は中止するということですが、まずは原案に対する意見を聞きたいと思います。」

2年A組①

「私たちのクラスは反対です。行事の中でもクラス対抗スポーツ大会を特に楽しみにしている人はたくさんいますし、今度三年生になる私たちにとって、一番思い出に残るはずの最後のクラス対抗スポーツ大会が開催されないなんて我慢できません。」

2年D組①

「私たちのクラスも反対です。なぜなら、あれほどクラスが一つになれる行事はほかにないからです。そこで私たちは市の総合体育館でクラス対抗スポーツ大会を開催すればよいのではないかと考えました。市の総合体育館であれば、メインアリーナは本校体育館に比べて約一・五倍の広さがありますし、サブアリーナや卓球場もあります。競技種目の変更も含めて工夫して使えば、規模としては従来と同等のものできるのではないかと思います。」

生徒会②

「ほかに発言はありませんか。それではただいま出された意見に対して質問はありますか。」

2年B組①

「2年D組さんに質問します。市の総合体育館はそんなに簡単に貸切りにできるのでしょうか。料金もかかるのでしょうか。」

2年D組②

「市の総合体育館のホームページで調べたところ、六月の団体貸切り利用の申込みは四月十日から受け付けるそうです。四月初めまでに利用することが決定できれば、申込手続きは間に合います。それから料金ですが、九時から十七時まで全館利用したときの利用料は、照明代を含めても、例年の行事予算と生徒会予備費を合わせた範囲内で支払いが可能な金額でした。」

2年B組②

「申込みをしたら必ず使用できるのですか。」

2年D組③

「問い合わせたところ、原則として、同日にほかの希望者がいた場合は抽選となります。必ず使用できるというわけではありません。」

1年A組①

「会場へは生徒はどうやって移動するのですか。」

2年D組④

「各自現地集合・現地解散で可能だと思います。」

問 【話し合いの一部】での各自の発言について説明したものととして、**適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。** 解答番号は 7。

- ① 2年A組①と2年D組①の発言は、反対意見という点では共通しているが、2年D組①の方が、具体的な提案をしていた。
- ② 2年B組の①や②の発言は、2年D組①の提案を実現するために必要な情報を引き出す質問であった。
- ③ 2年D組の②や③の発言は、根拠を明確にしないまま、質問に対して答えてしまっていた。
- ④ 2年A組②と2年B組③の発言は、話し合いで出てきた言葉にこだわってしまったために、本来の議論から外れてしまった。
- ⑤ 生徒会③の発言は、発言者の意見を受容しつつも、議論をうまく軌道修正したものであった。

2年C組① 「競技種目の変更ということですが、従来やっていたバスケットボールとバレーボールのほかにもどのような種目が考えられますか。」

2年D組⑤ 「詳しい競技種目の内容については、四月に発足するクラス対抗スポーツ大会実行委員会に任せるべきだと思います。あくまで参考としてですが、私たちがイメージしていた例を挙げれば、メインアリーナの広さから考えて、リレーは可能だと思います。あとサブアリーナにはフットサル用の設備もあります。卓球ももちろんできるでしょう。ほかにはドッジボールやバドミントンなどもコートの取り方を工夫すればできるのではないかと思います。」

2年A組② 「今、バドミントンという話が出ました。私はバドミントン部ですが、バドミントンは風の影響を避けるために扉や窓を閉め切らなくてはなりません。そうすると会場の温度が上がってしまうので、体調が悪くなる人がたくさん出てしまいます。やめた方がいいと思います。」

2年B組③ 「私もそう思います。近年は特に暑い時期の学校行事での熱中症に対する注意が必要になっていっているので、バドミントンは避けた方がいいと思います。」

生徒会③ 「ありがとうございます。ですが、具体的な競技種目の採用については実行委員会に任せましょう。」(以下、省略)

3

東高校の小田さんのクラスに、留学生のクリスマスさんがやってきた。クリスマスさんは、日本語での日常会話は問題なくできるが、じゃんけんについては何も知らなかった。そこで、小田さんは友達と一緒に、クリスマスさんにじゃんけんについて説明するために集めてきた内容であり、また【G】～【K】は、じゃんけんの由来等に関する内容となっている。これらを読んで、問1、問2に答えよ。

【A】

じゃんけんでは、掌を握った形の「石(グー)」、開いた形の「紙(パー)」、人差し指と中指の二本を出した形の「鉄(チョキ)」のいずれかの手を同時に出す。

【B】

じゃんけんでは、「じゃんけんぼん、あいこでしょ」などのかけ声に合わせて、手を出す。かけ声は、地域によって異なることもある。

【C】

じゃんけんは中国から伝わったと言われる。もともと児童の遊びであるが、やさしい事柄の判定に大人が使うこともある。

【D】

じゃんけんでは同じ手を出したときは、「あいこ」で勝ち負けがつかないため、やり直す。

【E】

「鉄(チョキ)」「紙(パー)」「紙(パー)」「石(グー)」「石(グー)」「鉄(チョキ)」に勝つ、というように、どの手にも必ず負ける手と勝つ手があり、三つの手の強さのバランスが取れている。

【F】

じゃんけんでは、最初に「石(グー)」を出してしまう傾向があるらしいので、「紙(パー)」を出せば勝てる確率があがると考える人がいるようだ。

【G】

じゃんけんの「けん」は「拳」と書く。「拳」にはこぶし、または、二人相対して手の開閉または指の屈伸などによって勝負を争う遊戯という意味がある。

【H】

虫拳では、親指を蛙かえる、人差し指を蛇、小指をなめくじとして、蛙はなめくじに勝ち、蛇は蛙に勝ち、なめくじは蛇に勝つとする。

【I】

遊戯としての拳には、本拳など数で勝負を決める「数拳」の他に、虫拳、狐拳きつねなど三者の関係で勝負を決める「三すくみ拳」がある。

【J】

本拳では、二人相対して互いに両手を少し前方に挙げ、右手の五指を互いに調子を合わせて敏活に屈伸し、双方の屈伸しない指の数の合計を瞬時に言い当てたのを勝ちとする。

【K】

狐拳では、両手を開いて両耳のあたりに挙げるのを狐、膝の上に両手を置くのを庄屋、左手の拳を握って前に出すのを鉄砲(狩人)として、狐は庄屋に勝ち、庄屋は鉄砲に勝ち、鉄砲は狐に勝つとする。

問1 クリスさんがじゃんけんに参加できるようにするには、【A】～【F】のどの内容を伝えるといいか。その組合せとして最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

① 【A】と【B】と【C】

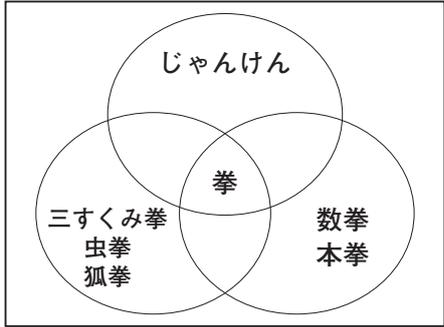
② 【A】と【B】と【D】と【E】

③ 【A】と【C】と【D】と【F】

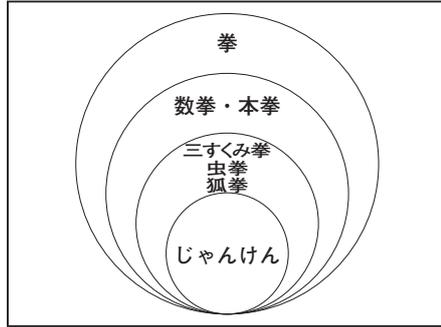
④ 【B】と【C】と【E】

⑤ 【B】と【D】と【F】

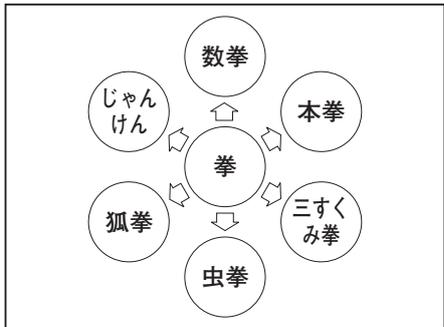
問2 「じゃんけん」と【G】～【K】にある様々な「拳」との関係を整理したものととして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。



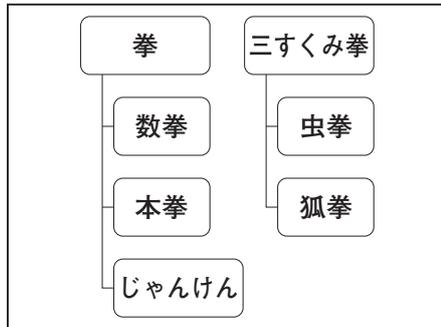
【エ】



【ア】

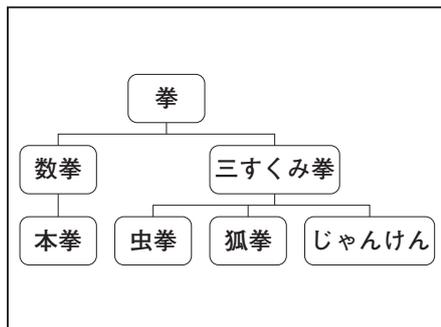


【オ】



【イ】

- ⑤ ④ ③ ② ①
 【オ】 【エ】 【ウ】 【イ】 【ア】



【ウ】

4

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

一緒に暮らして一年になる柴田朝世と間山俊樹は、俊樹の学生時代からの友人である坂口和人・秀美夫妻を通じて、元気な子猫をもらうことになった。二人は愛らしい子猫にすぐに夢中になった。二日後、仕事から帰った朝世は子猫の様子がおかしいことに気づき、最寄りの動物病院へ子猫を連れて行った。

朝世はただ診察室のまんなか立ち、ぼんやりと子猫を見つめるだけだった。注射を二本打ち、応急手あてがすむと、獣医は朝世を椅子に座らせた。「この子はペットショップでお求めになったんですか」

朝世は首を横に振った。

「おととい友人の友人からもらってきたばかりなんです」

「そうですか。ペットショップのものなら、保証書がきいて元気な猫ちゃんとの交換できるんですが、それは困りましたね」

子猫の返品保証。朝世には考えられないことだった。獣医は淡々といった。

「残念ですが、この子の心臓には生まれつき欠陥があります」

プリントアウトを見せると、ボールペンの先で濃い影を指した。

「心臓のなかに左右の部屋を分ける筋肉の壁があります。心室中隔しんじうちゅうかくというんですが、この子は生まれつきここにちいさな穴が開いていたようです。

この数日激しい運動をしなかったですか」

土日は俊樹と朝世とマンションのそこかしこを駆けまわって遊んでいた。あの元気な子猫の心臓に穴が開いていたなんて。朝世は力なくうなずいた。

「ちいさな亀裂がそれで広がってしまったんでしょう。左右の心室が短絡たんかくを起こしています。左心室からの血液が肺動脈へ流れこむので、肺うつ血を起こして呼吸が苦しくなっているのです。先ほどはうつ血を抑える薬を打っておきました」

そのときスーツ姿の俊樹が診察室にはいつてきた。台のうえで意識をなくしている子猫を見ると、朝世にうなずいた。

「こいつはだいじょうぶなんですか、先生」

疲れた表情の獣医はまったく変わらないペースで先ほどの話を繰り返した。最後にいう。

「問題はここからです。今夜はこの子をお預かりしますが、よくお考えになってください。このままでは助かりませんから、心臓の手術が必要で

す。手術には危険がともないますし、多額の費用もかかります」

俊樹が口をはさんだ。

「いくらぐらいなんでしょうか」

獣医はだいたいがといて、先日俊樹が買ったプラズマテレビほどの手術費用をこたえた。

「手術がうまくいっても、こうした障害をもって生まれた子猫は病弱なことが多く、あまり長生きしないかもしれません。成功しても合併症を起こして手遅れになることもあります。手術をするか、あるいはこのまま安らかに眠らせてあげるか、厳しい選択になりますが、よくお考えのうえ明日お電話ください」

朝世は必死でいった。

「明日じゃなくちゃだめなんですか」

「はい。もし手術をするなら、体調の管理をすぐに始めて……」

獣医は壁にさがっているロシアンブルーのカレンダーを見た。

「……今週末には手術をしたほうがいいでしょう。これ以上、穿孔(せんこう)が広がると危険なことになります」

「わかりました」

俊樹はそういうと朝世を見た。朝世はゆっくりと立ちあがった。なんとかこらえていた涙が診察室の白いタイルに点々と落ちてしまう。注射が効いたのか、呼吸がゆるやかになった子猫のところいき、そっと手をのせた。あたたかで薄い身体だった。

「明日またくるね」

朝世の肩に俊樹が手をのせた。朝世は抑えられずに俊樹の胸を借りて、吐くように泣いた。獣医も看護師もその場にいたのだが、どうにもならなかった。背中をなでる男の手のやさしさに、朝世は自制心が崩れていくのをとめられなかったのである。

帰り道で俊樹がいった。

「コンビニで弁当でも買っていく、それともなにかたべていく」

時刻はもう夜十時近くになっていた。のどはからからだが、食欲はまったくなかった。

「たべたくない」

俊樹は歩道で首を横に振った。

「だめだよ。朝世がたべなくてあいつが元気になるならいいけど、どうせ手術をするつもりなんだから」
朝世は青い顔をしてうなずいた。

「それならまだ一週間もあるし、そのあとの看病もある。今から栄養をつけておこなくちやだめだ」
朝世は俊樹に顔をむけた。うしろから走ってくる車のヘッドライトで表情は見えなかった。

「手術をするのはほくたちのエゴで、生まれたばかりのあの子には負担がおおきすぎるのかもしれない。たとえ成功しても先生のいうとおり、病弱なまま短い一生になるかもしれないし、つらい生きかたを押しつけるだけになるかもしれない」

俊樹のいうこともわかった。だが、朝世には手術以外の選択は考えられなかった。てのひらにのるほどちいさなくせに、あんなに熱い身体にふれてしまったら、ほかに選ぶことなどできなかった。うつむいてなにもいえなくなった朝世の手を引いて、俊樹が歩きだした。

「わかってる。手術に賭けてみよう。夏の旅行をキャンセルして、こづかいをすこし減らせばいい。手術料金は割り勘でいいよな」

朝世は泣きながら笑った。その夜はマンションの近くにある讃岐うどんの店にいき、俊樹はかき揚げを、朝世は冷やしきつねを注文した。俊樹が見ているので、なんとか半分だけうどんをすすり、朝世は箸をおいた。いつもなら大好きな味なのだが、舌がおかしくなっているらしく、とてもしょっぱく苦く感じた。

手術は土曜日の午後二時に決まった。予定では二時間ほどで終わるといふ。朝世と俊樹は動物病院の待合室で待機した。坂口夫妻もお見舞いに顔を出してくれる。秀美は朝世の手を取っていった。

「なんだか、わたしがおかしな子を紹介しちゃってごめんね」

朝世は首を横に振る。あの子は決しておかしな猫ではなかった。

「それより先方には病氣のこと、黙っていてくれたよね」

秀美はうなずいた。今度のこととはふたりだけで処理しようと朝世と俊樹は話しあっていたのだ。和人は銀行員らしくあっさり和金の話始めた。

「これお見舞い。なにかの足しにつかってくれ。うちの秀美が斡旋した話だし、こっちにも責任があると思うんだ。なんだか迷惑かけちゃったな」
和人は長い手紙くらいの厚みがある封筒をさしだした。俊樹はやわからかに押しかえすといった。

「いいんだ。やせがまんしてるんじゃないやなくて、ほんとにいいんだ。うちにはまだ三日間しかないけど、あいつはうちの家族だ。ほくたちふたりに面倒を見させてくれ」

俊樹の言葉をきいて、朝世は手術まえの子猫の姿を思いだした。全身麻酔をかけるまえに短い面会が許されたのだ。あの子は自分がなぜこんな目にあうのかわからないという表情で緑の目をいっぱいに開き、必死にふたりを見つめてきた。朝世は心を切り刻まれるような気がして、泣かないつもりだったのに泣いてしまった。俊樹だってあわてて顔をそらし、指先で目を押さえていたはずだ。思いだすだけで、また涙がにじんでしまう。宙に浮いた封筒を見て秀美がとりなすようにいった。

「わかった。ねえ、和人さん。手術がうまくいったら、最高の猫缶とおもちゃをプレゼントしよう。そのお金は病氣じゃなく、元気になったあの子のためにつかってあげようよ。それなら、俊くんも朝ちゃんもいいでしょう」

俊樹は笑ってうなずいた。朝世の涙腺はもうおかしくなっているようだった。元気になったあの子という言葉だけで、涙があふれてとまらなかった。秀美も笑いながらも泣きしめていた。

十五分ほどしてふたりがかえっていくと、長い待ち時間が始まった。なぜだかひどくのが渴いた。壁にかかった白い文字盤の時計を見ると、何時間もたつたような気がするの、ほんの数分しかすすんでいない。俊樹はそなえつけの冷水機を何度も往復した。朝世はシオルダーバッグから手帳を取り出すと、ボールペンで走り書きを始めた。ルーズリーフを一枚ちぎるとくしゃくしゃに丸めてバッグに押しこんだ。

「なにしてるんだ」

朝世は泣きそうな声でいった。

「あの子の名前を考えている。あの子は今苦しくてたまらなくて、それでも必死に闘っていると思う。がんばられて応援してあげたいけど、わたしはどんなふうに呼んだらいいのかもわからない。わたしたちのまわりにあるものは、どんなにくだらないうものでも、ちゃんと決まった名前をもっているに、あの子には名前もないの。生まれてひと月で、もっているのは穴のあいた心臓だけなんだ。そう考えたら、たまらなくなつて」

C 朝世はボールペンの先を手帳に突き刺した。声を漏らさないように肩を震わせている。俊樹がベンチのとなりにやってきて、しっかりとその肩を抱いた。

「今はいいよ。あいつがもっているのは穴のあいた心臓だけじゃない。ぼくたちだっているし、帰る家だつてある。名前のない猫だつて漱石そうせきみたいで悪くないじゃないか。やつが根性を見せて無事にもどってきたら、ふたりで死ぬほど考えていい名前をつけてあげよう」

声が濡ぬれているような気がして、朝世はそつと俊樹の顔を盗み見た。男の目には涙がたまっていたが、こぼれてはいなかった。

D 「今回のことで、ぼくにはよくわかったことがある。名前つてぼくたちがやつてるみたい誰のものかあらかわすだけじゃないんだ。何度も心のなかで呼んでみたり、歌うように繰り返したり、誰にも見られないように書いたりする。好きな人の名前つて、それだけでしあわせの呪文なんだね。ぼく

は朝世の名前が好きだよ。うちにあるツナ缶やスバゲッティやプーアル茶のうえに書いたAだって、すごく気に入ってる。部屋中全部Aと書いてあってもいいくらいだ」

朝世は涙をふいて、いたずらっぽく笑った。

「じゃあ、あの新しいテレビにもAって書いていいの」

俊樹も笑ってうなずいた。

「いいよ。まだ十カ月はローンが残ってる。書いてくれたらありがたい」

ふたりは同時に短く笑い声をあげた。朝世は右手の人さし指で俊樹の頬にAと書くと、あたりに看護師の姿がないのを確認してから、そのイニシャルがいつまでも消えないように、そつと唇を寄せた。

手術は二時間半かかって終了した。獣医が感情の読めない顔で、ステンレスの扉を抜けてくる。ふたりはベンチから立ちあがった。中年の医師が口を開いた。

「手術は成功しました。あとはこの数日中に合併症がでないかどうか、つぎの関門です。そこをのりきれば、そうですね、二週間後には退院です」
ふたりの声がそろってはじけた。

「先生、ありがとうございます」

そのとき扉が開いてストレッチャー(注3)にのせられた子猫が点滴スタンドとともに運ばれてきた。胸から腹にかけて広い範囲の毛が剃られているので、ひとまわりちいさく見えた。だが、その腹は呼吸にあわせて勢いよく波打っている。疲れた表情の獣医がいった。

「いいえ。お礼をいうのはこちらのほうです。ああした場合、だいたいのかたは安楽死を選びます。ひどいときにはペットショップの店員が、その場に交換の子猫をもってきたりすることもある。失礼ながらわたしは、おふたりもきつとそうなるだろうと思っていた。今日の心臓のオペは現代の技術なら、勝ち目の多い手術でした。あの子に生きるチャンスを与えてくださってありがとうございます」

(石田衣良『ふたりの名前』による。)

(注1) ロシアンブルー——猫の一種。

(注2) 穿孔——医学用語で生物の体にあいた穴のこと。

(注3) ストレッチャー——脚部に車輪の付いた移動式の簡易な寝台。

問1 傍線部A 朝世には考えられないことだった。とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号

は 10。

- ① 全てのペットに返品保証という制度を適用できる可能性があることが、これまでに生き物を飼ったことがない朝世にとっては思いもよらないことであったから。
- ② 朝世にとってこの子猫は家族同然の存在なのに、ペットを愛玩物としてしか見ない人に対するように朝世へと話しかけてくる獣医の態度が腹立たしかったから。
- ③ ペットショップで買ったのではなく友人の友人から譲り受けた子猫なので保証書などは存在しないため、返品や交換ということは初めから想定していなかったから。
- ④ 自分が子猫の命の危機に直面して懸命に何とかしようとしているのに、他の子猫との交換の可能性がないことを気にする獣医の態度が納得できなかったから。
- ⑤ 朝世にとって目の前にいる子猫はかけがえのない交換不可能なただ一つの存在であり、返品保証という名目のもとに交換することは到底あり得なかったから。

問2 傍線部B 朝世は泣きながら笑った。とあるが、このときの朝世についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

べ。解答番号は 11。

- ① 自分には子猫に手術を受けさせることしか頭がないのに、そうすることが本当に正しいのだろうかと言った俊樹の気持ちがわからなくて涙が止まらなくなったのだが、それでも手術を受けさせようとは言ってくれた俊樹にこたえたくて泣きながらも笑顔を見せようとした。
- ② 自分には子猫を手術させる以外の考えはないのに、俊樹が自分の気持ちを裏切るような反対意見を述べ、それが正論だということがわかるだけに悲しくなり涙が止まらなくなったが、俊樹は結局折れて、最後には冗談めかしてまとめてくれたことがうれしかった。
- ③ 子猫の手術が賭けであることを考えると失敗したらという不安に押しつぶされるように涙が止まらなくなってしまったのだが、その不安を振り払うように手術料金は割り勘でなどと明るく話す俊樹の様子がおかしくて、泣いているのについ笑みがこぼれてしまった。
- ④ 生まれながらに重い病気をもち、手術しても長くは生きられないかもしれない小さな命に対して、朝世は受け止めきれない辛い思いを抱いていたが、その気持ちに寄り添ってくれる俊樹のやさしさと励ましを受け取り、悲しみに打ち沈んでいた心が少しほぐれていった。
- ⑤ 生まれたばかりでこんなに厳しい現実と直面することを強いられた子猫のことを思うと涙が止まらないのに、こんなときでも手術料金は割り勘にするなどと言いつつ俊樹の現実的なところにあきれてしまい、こんな人と暮らしているのかと思わず笑ってしまった。

問3 傍線部C 朝世はボールペンの先を手帳に突き刺した。とあるが、このときの朝世の心情を説明したものととして最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 手術中の子猫に呼びかけるための名前すらつけなかったことへの後悔や、自分の無力さと情けなさを実感し、声にならない激しい悲しみに心を痛めている。
- ② 名前のない猫だつて悪くないとなくさめてはもらったが、獣医に名前はまだつけていないとは言えないと思い、今のうちに何とかしなければと焦っている。
- ③ 子猫に名前がないことにいまさら気づき、早くいい名前を考えて手術が終わったらその名前で呼んであげたいがうまくいかず、手帳に怒りをぶつけている。
- ④ 手術中の子猫に対して今自分のできることはなんだろうと必死になっているのに、のんきに水ばかり飲んでる俊樹の様子に激しいいらだちを感じている。
- ⑤ 好きな人の名前を唱えることが幸福感につながると思い、子猫に名前をつけてこの辛さから逃れようとしたが、うまくいかずに悲しい気持ち募っている。

問4 傍線部D 今回のことで、ほくにはよくわかったことがある。とあるが、このときの俊樹についての説明として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 手術の日となって初めてこの子猫にはまだ名前が与えられていなかったことに気づき、結局自分たちの子猫への気持ちというのは自分本位なものにすぎなかったのではないかと罪悪感を抱いている。
- ② 名前とはその人そのもので、その名前を呼ぶことはその人自身とふれあうことであり、同じように自分が朝世の名前を口にするときの幸福感も朝世に対する思いの深さの表れだったと気づいている。
- ③ 朝世は子猫に名前さえつけてあげられなかったと悔やむが、問題なのは名前があるかないかではなく、子猫に愛情を注いであげられる自分たち二人の在り方だったのだということに思い至っている。
- ④ 名前とはそれが誰の所有物であるかをはっきりさせるものであるため、子猫に名前をつけ、その名前を呼び続けることによって自分たちの家族の一員として迎えることにつながるのだと実感している。
- ⑤ 名前がないからといってこの場であわてて名前を考えるのではなく、たとえばしばらく名前がないままでも、子猫にとっては自分たちや帰る場所があるということの方が重要なのだと認識を改めている。

問5 傍線部E お礼をいうのはこちらのほうです。 とあるが、獣医がこの言葉に込めた思いを説明したものととして最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 自分がどんなに力を尽くしても、動物を取り換え可能な愛玩物のようなものとしか見ようとしない人々に接するうちに失いかけていた命の尊さに対する思いが、この手術の成功をきっかけに戻り、自分自身が獣医としての出発点に立ち返ったような感慨を込めて語っている。
- ② 自分勝手な飼い主のせいで小さな命を救うことができない状況が続き、心身の疲れが表情にまで出るようになってしまっていたが、生まれてすぐ病気となった子猫の命を助けようとする二人のひたむきさが、その疲れを払拭してくれたことに対する喜びを込めて語っている。
- ③ 手術は失敗してしまうかもしれないという危惧から二人に対してなるべく中立的な、感情に左右されない態度で接してきたが、困難な手術を成功させたことで獣医としての自信を取り戻すことができ、その機会を与えてくれた二人に対して感謝の思いを込めて語っている。
- ④ 普段は獣医として飼い主の考え方には中立の立場をとるように努めているが、朝世たちが子猫をただの愛玩物ではなく、一つのかげがえのない命としていつくしんでくれたことに対して深い喜びを感じ、動物の命に関わる者としての感謝の思いを込めて語っている。
- ⑤ 子猫には負担が大きすぎる手術を望むような理性的でない行為には批判的にならざるを得なかったのだが、手術が成功した今改めて二人の命へのひたむきな思いにふれ、獣医としての理性的な判断が全てではないことに気づいたことへの感謝を込めて語っている。

問6 この文章の表現の特徴について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 「エゴ」や「ロシアンブルー」「ストレッチャー」などの馴染みのないカタカナ語を使用することで、子猫に関わる場面で立ち止まって熟読するように工夫されている。
- ② 死に瀕した子猫に焦点をあてながら、場面を病院に限定することで、そこに現れる人間模様について登場人物たちの立場の違いが浮き彫りになるように描かれている。
- ③ 一緒に暮らしている男女のうち、主に女性に視点を置き、その女性の心の動きを追うことで、飼っている子猫の病気という事態に際しての心理的葛藤が描かれている。
- ④ 医療に関する専門用語をあえてそのまま用いることで、平穏な日々を過ごす男女が死を意識する非日常の世界に打ちのめされる様子が臨場感を持って描かれている。
- ⑤ 主人公の女性と周囲の人々との軽妙な会話を多用することによって、子猫の病気に焦点をあてた深刻になりがちな物語が、テンポよく展開する明るい物語になっている。

5

次のⅠ・Ⅱの文章を読んで、問1～問5に答えよ。

I

〔次の文章は、ある剣術修行者が技を極めようとして天狗たちのいる深山に入り、教えを請う場面である。〕

その中に大天狗と覚しくて、鼻もさして長からず、羽翼も甚だ見れず、衣冠正しく座上にありて、謂ひて曰はく。

各々論ずる所みな理なきにあらず。古は情篤く、志親切にして、事を務むること健やかにして、屈することなく、怠ることなし。師の伝ふる所

を信じて昼夜心に工夫し、事にこころみ、うたがはしきことをば友に討ね、修行熟して吾とその理を悟る。ゆゑに内に徹すること深し。師は始め、事

を伝へてその含むところを語らず、自ら開くるを待つのみ。これを引而不発といふ。咨みて語らざるにはあらず。この間に心を用ひて修行熟せんこと

を欲するのみ。弟子心を尽くして工夫し、自得する所あれば猶ほ往きて師に問ふ。師その心に叶ふときはこれを許すのみ。師の方より発して教ふること

となし。唯芸術のみにあらず。孔子曰はく、一隅を挙げて三の隅を以て反さふせざる者には復せずと。これ古人の教法なり。故に學術芸術ともに

慥かにして篤し。

今人情薄く、志切ならず。少壮より勞を厭ひ、簡を好み、小利を見て速やかにならんことを欲するの所へ、古法の如く教へば、修行するものあるべ

からず。今は師の方より途を啓きて、初学の者にもその極則を説き聞かせ、その帰着する所をしめし、猶ほ手を執つてこれをひくのみ。かくのごとく

してすら猶ほ退屈して止む者多し。次第に理は高上に成つて古人を足らずとし、修行は薄く居ながら、天へも上る工夫をするのみ。これまた時の勢ひ

なり。人を導くは馬を御するがごとし。その邪にゆくのを抑へて、そのみづからすすむの正氣を助くるのみ。また強ふることなし。

〔『天狗芸術論』による。〕

II

〔次の文章は、王の近くにゐる小人が王を悪い方へ導くこと、及び王も学に専心するべきことを孟子が述べたものである。〕

今夫^{（注6）} 弈^{（注7）} 之^{（注7）} 為^{（注7）} 数、小^{ナレドモ} 数^也、不^レ 專^{ラニシ} 心^ヲ 致^サ 志^ヲ、則^レ 不^レ 得^{ナリ} 也。^{（注8）} 弈^{（注8）} 秋、通^ク 国^{スル} 之^ヲ 善^ク 弈^ク 者^也 也。

使^{（注9）} 三^{（注9）} 弈^{（注9）} 秋、誨^{（注9）} 二^{（注9）} 人^{（注9）} 弈^{（注9）}、其^{（注9）} 一^{（注9）} 人^{（注9）} 專^{（注9）} 心^{（注9）} 致^{（注9）} 志^{（注9）}、惟^{（注9）} 弈^{（注9）} 秋^{（注9）} 之^{（注9）} 為^{（注9）} 聽^{（注9）}。一^{（注9）} 人^{（注9）} 雖^{（注9）} 聽^{（注9）} 之^{（注9）}、一^{（注9）} 心^{（注9）} 以^{（注9）} 為^{（注9）}、有^{（注9）} 鴻^{（注9）} 鹄^{（注9）} 一^{（注9）} 將^{（注9）} 至^{（注9）}、思^{（注9）} 援^{（注9）} 二^{（注9）} 弓^{（注9）} 繳^{（注9）} 一^{（注9）} 而^{（注9）} 射^{（注9）} 之^{（注9）}、雖^{（注9）} 与^{（注9）} 之^{（注9）} 俱^{（注9）} 学^{（注9）}、不^{（注9）} 若^{（注9）} 之^{（注9）} 矣^{（注9）}。為^{（注9）} 是^{（注9）} 其^{（注9）} 智^{（注9）} 不^{（注9）} 若^{（注9）} 与^{（注9）}。曰^{（注9）}、非^{（注9）} 然^{（注9）} 也^{（注9）}。

（『孟子』による。）

（注1） 吾と——自分で。

（注2） 一隅を挙げて三の隅を以て反さふせざる者には復せず——『論語』述而第七に「挙一隅不以三隅反、則不復也」とある。「四角なものを教

えるのに、一隅を持ち上げてみせると他の三隅に反応を示すようであれば、重ねて教えることはしない」の意。

（注3） 慥かにして篤し——確かで奥が深い。

（注4） 少壯——若いとき。

（注5） 理は高上に成つて古人を足らず——理屈ばかりが高等になって、昔の人は言葉が足りない。

（注6） 弈——囲碁。

（注7） 数——技術。「小数」はつまらぬ技術。

（注8） 弈秋——「秋」という名の囲碁の名人。

（注9） 鴻鹄——大きな鳥。

（注10） 繳——「いぐるみ」といって、糸繩をもって矢の端にかけているしかけ。

問1 傍線部A 引而不発 は次の漢文を引用したものである。ここで孟子はどのようなことを述べているのか。最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

孟子曰、「大匠不為拙工改廢繩墨。羿不為拙射變其彀率。君子引而不発、躍如也。中道而立。能者從之。」

(『孟子』による。)

- 大匠 — 大工の棟梁。
- 拙工 — 下手な大工。
- 繩墨 — 大工が木材にまっすぐにすじを引くときに用いる道具。
- 羿 — 弓の名人の名前。
- 拙射 — 弓を射ることの下手な人。
- 彀率 — 弓を引きしぼる限度をいう。
- 躍如 — いきいきと、おどりたつようなさまを形容した言葉。

- ① 君子が道を教える場合は、自分が正しいと思う道信じ、君子の教えを支持する者だけが道を開けるようにすること。
- ② 君子が道を教える場合は、学ぶ者に常に厳しい態度で臨み、能力のない者でも自分で道を開けるようにすること。
- ③ 君子が道を教える場合は、偏りのない立場で見守り、自分で道を開ける者が教えについて行けるようにすること。
- ④ 君子が道を教える場合は、周囲に流されることなく自分の道を意識し、能力のある者だけが道を開けるようにすること。
- ⑤ 君子が道を教える場合は、分かりやすく丁寧に教えることを心がけ、多くの者が道を開けるようにすること。

問2 傍線部B 師の方より発して教ふることなし。の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 師は気に入った弟子に対してだけ真理を教えればよく、全ての弟子に教える必要はないから。
- ② 師自身も未だに真理を習得するために修行しているので、簡単には真理を教えることができないから。
- ③ 師は学問や芸術の総論を教えるだけで、専門的な内容は弟子同士が教え合いながら真理を悟るから。
- ④ 昔の人間はみな熱心に学ぶので、師から何も教えなくても弟子が勝手に真理を悟ってしまうから。
- ⑤ 最初に師は技のみを教え、後は弟子自身が試行錯誤しながらその真理を悟るのを待つだけだから。

問3 傍線部C かくのごとくしてすら猶ほ退屈して止む者多し。の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 初心者に対して馬を御する方法を順序立てて細やかに指導しても、やはり途中で退屈感じて馬の飼育をやめてしまう者が多いのである。
- ② 初心者に対して最終的な目標と核心的な原理を提示して手取り足取り指導しても、やはり退屈に感じて修行をやめてしまう者が多いのである。
- ③ 修行者に対して面倒なことでも自分のために目標を立てるように指導しても、それでも退屈に感じて夢をあきらめてしまう者が多いのである。
- ④ 若い弟子に対して学問をするうえで的心構えや研究する方法を丁寧に指導しても、やはり退屈に感じて研究をやめてしまう者が多いのである。
- ⑤ 有望だと思われる弟子に対して数年で真理に到達させようと指導しても、むしろ退屈に感じて学ぶことをやめてしまう者が多いのである。

問4 傍線部D 一心以為 とあるが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 何も知らない王を馬鹿にしてやろうということ。
- ② 何とかして孟子を冷やかしてやろうということ。
- ③ もう一人の弟子を出し抜いてやろうということ。
- ④ 飛んできた鳥を弓で射貫いてやろうということ。
- ⑤ 囲碁の技術を一番早く習得してやろうということ。

問5 I・IIの文章を読んだ後、清水さんは本文の内容をノートにまとめた。空欄 E・F に入る内容として最も適当なものを、後の①

～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 20・21。

【清水さんのノート】

Iの文章

- ・立場 …… 指導者
- ・具体例 …… 御者
- ・まとめ …… E

IIの文章

- ・立場 …… 学ぶ者
- ・具体例 …… 囲碁
- ・まとめ …… F

E

20

- ① 教える者は学ぶ者が様々な誘惑に気持ちが向かないようにし、自然と学ぶことができるように支援しなければならない。
- ② 教える者は学ぶ者の能力をきちんと把握し、学びに集中できる環境を整えながら、その能力以上の内容は教えてはならない。
- ③ 教える者は学ぶ者の持つ本来の力を信じるのではなく、決まった内容を確実に伝え、必ず真理に到達させなければならない。
- ④ 学ぶ者は常に意欲的なわけではないので、教える者は常に学ぶ者の様子を見極め、集中できるときに学ばせなければならない。
- ⑤ 学ぶ者は自分から学びたいという気持ちが強いので、教える者はあえて教えないという気持ちを我慢しなければならない。

F

21

- ① 常に師の教えを守るだけではなく、多くの人々の教えを請うことの方がより大切である。
- ② 師事した人によって教える内容に差があるので、優れた師を見つけることが大切である。
- ③ 人間には本来的に備わっている力があるので、各自がその力を伸ばすことが大切である。
- ④ 能力があるかどうかよりも、教えられたことに集中して学ぶ努力をすることが大切である。
- ⑤ 教えられたことを集中的に学ぶことよりも、興味関心のあるものを学ぶことが大切である。

